

機械工学委員会・総合工学委員会・電気電子工学委員会合同 IFAC 分科会
(第 26 期・第 4 回)

議事要旨

1. 日 時 令和 8 年 3 月 30 日 (月) 11:00~12:00
2. 会 場 遠隔会議 (主催会場: 東北大学田中真美教授室)
3. 出席者 (敬称略)

田中 真美, 荒井 幸代, 新井 史人, 井村 順一, 岩崎 誠, 榎木 哲夫, 高橋 桂子,
廣野 陽子, 藤崎 泰正, 藤本 博志, 藤森 真一郎, 水野 毅, 石井 秀明
欠席: 浅間 一, 坂東 麻衣

4. 配布資料

第 26 期第 4 回 IFAC 分科会議事次第

資料 1 第 26 期第 3 回分科会議事要旨

資料 2-1 自動制御の多分野応用小委員会 (第 26 期・第 3 回) 議事録

資料 2-2 自動制御の多分野応用小委員会 (第 26 期・第 4 回) 議事録

資料 4-1 令和 7 年度 自動制御協議会_第 3 回理事会議事録

資料 4-2 令和 7 年度 自動制御協議会 第 4 回理事会次第(案)

資料 5-1 [IFAC] Letter from Election Committee chair Maria Prandini 2026-2029

資料 5-2 [IFAC NMO] Constitutional amendment _TC senior membership_

資料 5-3 [IFAC NMO] New Austrian NMO

資料 5-4 [IFAC] Invoice membership fee 2026 JAPAN

資料 5-5 [IFAC] Activity Fund

資料 5-6 [IFAC] 2026 IFAC Council- and Related Meetings Busan, Korea

資料 5-7 Meeting Schedule_V2_Busan

資料 5-8 Application_Japan_NMO_2025

議事

- 1) 資料 1 に基づき、田中から前回 第 26 期第 3 回の分科会議事録の確認が行われた。
- 2) 資料 2-1, 資料 2-2 に基づき、第 26 期 自動制御の多分野応用小委員会の活動について藤崎委員から説明がなされた。5 月はオンラインで、11 月は自動制御連合講演会の名古屋大学の会場にてハイブリッド形式で小委員会が開催されたことが報告された。
- 3) 自動制御連合講演会の活動状況と準備状況について藤崎委員から説明があった。昨年も IFAC 本部に IFAC^x のロゴ使用を申請し、承認され使用したこと、また今年も申請したことが報告された。2025 年度は機械学会が幹事学会となり名古屋大学で行われ 367 件の講演と 580 名の参加登録者と盛況であったこと、2026 年度は SCIE が幹事学会となり東京都市大学世田谷キャンパスで行われる予定である事が報告された。

4) 資料 4-1 に基づき、石井委員から自動制御協議会の活動について、説明があった。11月の連合講演会で開催されたランチセッション、ガールズインコントロールイベントなどが説明された。また IFAC から Girls in control の活動について、日本では活発に対応していることから贈賞されることが報告された。

5) 資料 4-2 に基づき、石井委員から説明などがあった。次年度に向けた理事の交代について、大塚先生が会長に就任することが説明された。また、広島で開催されるワークショップについて報告されたこととともに、IFAC の国内でのワークショップが少ないことを指摘され、関係者からの協力と支援を求めた。榎木副委員長からは世界大会と同じ年に開催されるイベントについて質問がなされ、石井委員からこのイベントは IFAC の TC の中心的な活動だが、オフィシャルなイベントではないと説明なされた。

6) 資料 5-1~資料 5-8 に基づき IFAC 本部からの通知や対応について IFAC NMO Representative の榎木副委員長から報告がなされ、審議を行った。

—資料 5-1 については、2026 年から 2029 年の IFAC 本部の役員について、前回は審議していた件であり、IFAC 本部とのやり取りや、途中経過、最終役員リスト候補者 3 名が入っていることが報告された。

—資料 5-2 Technical Committee Senior members に関する IFAC 規約の改正について、投票の依頼があり榎木先生が対応したことが報告された。

—資料 5-3 オーストリアの IFAC を担当する学会が変更されることが報告された旨を榎木先生から説明がなされた

—資料 5-4 IFAC の会費の請求について説明がなされた。例年通り日本学術会議とやり取りを行っていることが榎木副委員長から説明があった。

—資料 5-5 IFAC 活動基金の助成公募について説明があった。2026 年 4 月 30 日締め切りで興味のある人は応募しても良いのではないかと説明があった。

—資料 5-6 今年韓国プサンで行われる IFAC 世界大会などで行われる各種会議の準備や期限について説明があった。

—資料 5-7 韓国プサンの世界大会で行われる各種会議の詳細スケジュールが紹介された。

—資料 5-8 IFAC^X についての説明がなされ、自動制御連合講演会から今回も申請が行われ IFAC^X_{JAPAN} として行われることが報告された。

7) 次期の体制について

榎木副委員長から分科会の今期が 9 月末で終わること、今後のことも考えて次の体制などについて検討する必要性などについて指摘された。田中から、法人化に伴う日本学術会議の体制などについて、2 月に連携会員と会員にすでにメールで配布されている会長からの説明の資料を用いて、現在の連携会員は本人が承諾すれば来期も連携会員であることや、任期、国際関連の分科会については今期中に次期について対応する可能性があることなどが説明された。必要に応じては、IFAC 分科会を今期中に開催する可能性がある旨も説明された。